

あけましておめでとうございます。

「今年が良い年になりますように。」— 2011年3月11日以来、この平凡な言葉の実現がいかに困難なことか、身に染みて分かるようになりました。

世界を見渡しますと、戦争の火種は数多くあります。自国の権利ばかり主張しているようでは平和は遠のいていくばかりです。共存共栄のためには、譲り合いの精神が必要です。翻って身の回りを見ても赤信号になっても右折する車、歩行者を邪魔者扱いする車や自転車、譲り合うどころか早い者勝ち、強い者勝ちの弱肉強食の世界です。昨夏、米子へ車で行く機会があり、彼の地の交通マナーの良さに感動しました。信号はすべて歩車分離です。車も譲り合いの精神が行き届いていました。身近なところから、まず自分自身から実践していきたいものです。



【最近目立つ病気】

あいかわらず、マイコプラズマ感染症と、乳幼児でRSウイルス感染症が流行中です。インフルエンザは年末から金沢市内でも出始めました。おそらく例年どおり1月中旬から本格的な流行がはじまるものと思います。インフルエンザが流行し出すと他の感染症は目立たなくなりますが、流行前は様々な感染症がみられます。今年もノロウイルスに代表されるウイルス性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、アデノウイルス感染症、水痘、おたふくかぜがみられています。手足口病やアデノウイルス感染症は少し前までは夏に流行するものでしたが、近年は1年中みられるようになりました。

【ノーウォークウイルス感染症】

ノロウイルス胃腸炎が新聞紙上を賑わしています。すでに1960年代から秋から春にかけてウイルス性胃腸炎が流行することは知られていました。1968年に米国オハイオ州ノーウォークという町の小学校で急性胃腸炎が集団発生しました。その患者さんの糞便からウイルスが検出され、ノーウォークウイルスと呼ばれました。その後世界各地で似たようなウイルスが発見され、ノーウォーク様ウイルスまたは電子顕微鏡下の形態から小型球形ウイルスと言われるようになりました。その後、小型球形ウイルスには2種類あることが判明し、2002年8月に国際ウイルス学会でノロウイルスとサポウイルスに正式に命名されました。

しかし、野呂(Noro)姓の方々から、いじめやからかいの原因となるというアピールがあり2011年の国際ウイルス分類委員会はノロウイルスという属名は使うべきではなく、本来のウイルス名称であるノーウォークウイルスを使うように関係者に求めています。

以前から俗に「おなかの風邪」と呼ばれていた大部分はノーウォークウイルスと考えられます。潜伏期間は1~2日で治癒後も1~3週間は便中にウイルス排出が続きます。

主な症状は突然の悪心・嘔吐、下痢、腹痛、悪寒、発熱、身体痛、頭痛等です。急性期の症状は1~2日で軽快しますが、下痢は数日かけて徐々に治まっていきます。乳幼児やお年寄りでは1~2週間、下痢が続くこともあります。また、感染しても発症せずに終わる場合(不顕性感染)や普通の感冒のような症状で終わる場合があると言われています。つまり一旦流行がはじまると、その制御は極めて困難です。

確定診断は糞便中のノーウォークウイルスを検出します。最近、迅速診断法が保険適応となりましたが3才未満と65才以上に限られています。



【ワクチン最新事情】

(1) 平成25年4月から、金沢市でも結核に対するBCGワクチン接種が個別接種となります。これまでは集団接種だったので、ワクチン接種のスケジュールを立てる際に他のワクチンとの同時接種ができないため不自由でした。個別接種となり、しかも生後5~8ヶ月が標準接種期間で生後1年まで可能となるため時間的な制約が非常に楽になります。

(2) 任意接種であったヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)の3種類が定期接種化の予定です。この3種類のワクチンは任意接種ですが2010年度半ばから本年度末まで自治体と国が費用を助成しています。本年4月からこのままの制度でやっていくのか、定期接種のワクチンとして組み込まれるのか、まだはつきりしていません。なお、厚生省は、世界保健機関(WHO)が推奨している水痘、おたふくかぜ、B型肝炎、成人用肺炎球菌、ロタウイルスのワクチンも順次定期接種の対象として検討しています。

(3) 任意接種の水痘ワクチン、お

たふくかぜワクチンについて、2回接種が推奨されるようになりました。おたふくかぜについては1才に1回目 3~5才代で2回目、水痘については1才に1回目 3ヶ月以上あけて2回目が標準です。

(4) 接種部位についてはワクチンによる大腿四頭筋拘縮症の出現はないとのことで、これまでの上腕接種部位に加え、大腿前外側部が推奨されています。2012年度の医師用予防接種ガイドラインに記載されました。赤ちゃんの小さな腕に接種するのはたいへんなので、今後は当院でも大腿前外側部を採用したいと考えています。

【ワクチンを受ける時の注意】

麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘に罹った後は、かかり始めから1ヶ月間はワクチン接種は控えましょう。突発性発疹症に罹後は発疹消失から2週間は控えましょう。その他の感染症は解熱後1週間は控えましょう。治りがけの多少の咳や鼻水は問題ありません。熱性痙攣後は1ヶ月間は様子を見るのが一般的ですが、個々のケースで対応が異なりますので、ご相談ください。

MEMO



☆大手町の夜間急病診療所(Tel:222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は1/31・2/21・3/24の予定です。また、1/13は当番医です。

☆麻疹・風疹ワクチンの第3期(中学1年生)、第4期(高校2・3年生)を実施しています。必ず接種しましょう。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

